

日本人一箇も来ていない

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問 教育アドバイザー

張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】人を「一箇」と呼ぶか

台北に3年間駐在しました。ある日、友人と有名な四川料理の店で会食する約束をしました。予定の7時に出かけて、友人の名を告げました。顔見知りの支配人は気の毒そうな顔をして「まだ、日本人一箇も来ていないよ」と言われました。彼は日本の大学を卒業し、日本人よりもきれいな日本語を話す人です。それだけに、びっくりしましたが、すぐに「ああ、そうか」とうなずきました。

日本人と中国人は、同じような漢字を使っている、随所に意味の違いがあります（汽車＝自動車。機場＝空港等）。その一つに、人を数える言葉は一箇人（いーがれん）、二箇人（りゃんがれん）といいいます。ふだん中国語を使っている人ですから、日本語に直訳して「一箇も来ない」と言ったのでしょう。

似たようなことで、ニューヨーク日本学校の米人の先生に、庭に出てきた鹿を指差しながら一頭、二頭と教えました。翌日、絵本のねずみを指して得意げに「三頭のねずみですね」と言われました。あわてて小さな動物は匹と教えました、釈然としてはいませんでした。

【2】助数詞は難しいか

日本に帰国して、テレビドラマを見ていると、なんでもイッコですませているシーンがあっただけでした。

ところが、最近は子どもは致し方ないとして、若いお母さん方の会話にもイッコが頻繁に出てきます。

日本には暮らしのなかで生まれた、消えてしまうのには惜しい、美しい単位があります。こどもにもわかるように説明しますと、正しい数え方をおぼえます。自分たちが教わった数え方を、ときどき意識して教えてやりたいものです。

【3】見た目を大事にして数えるもの

(1) 長いもの

①一本（いっぽん）もともと（本）は、木の下部分を指します。棒状のものを数えるときに使います。

煙突・大根・鳥の腿肉・アドバルーン・錐・映画・ビデオテープ・手ぬぐい・ネクタイ・輪ゴムなど。

②一筋・一条（ひとすじ・いちじょう）「条」は木の枝という意味です。長いもので「本」より柔らかいイメージのあるものが多いですが、「矢」や「槍」を「条」で数えることもあります。「本」で数えても間違いではありません。「煙」「ともしび」は「一筋」と数えます。煙。涙。紐。道。帯。川など。

③一管（いっかん）中が空洞で長いもの。筆、笛など。

(2) まるいもの

①一顆（いっか）丸くて粒上のものを指します。丸くて小さいものを数えるときに「顆」を使います。宝石。印鑑・印判。毬。柚。瓜。玉など。

②一玉（ひとたま）西瓜・キャベツ・たまねぎ・干し柿・メロンなど。

③一球（いっきゅう）ボール・球根など。

(3) 平らなもの

①一枚（いちまい）櫛・ざる蕎麦・紙・着物・かわら・田畑・扇・Tシャツ・DVD・CD・風呂敷など。

②一面（いちめん）琴・鏡・硯・扇・団扇。柄のついている扇・団扇は一柄（いちへい）という数え方があります。

(4) 張ってあるもの

①一張（ひとはり・いっしょう）鼓・提灯・和傘など。

(5) 垂れ下がったもの

①一垂（ひとたれ）ピンと張ってあって、しかもタラリと垂れています。暖簾（のれん）・幕・蚊帳など。

(6) 口が一つのもの

①一口（いっこう、いっく）人や生き物も口が一つですので、一口と数える場合が「あります。一定の地域に住む人数を人口といいますね。釜・杯・壺・土器など。

(7) 竹の幹のようなもの

①一棹（ひとさお）竹の幹を棹と言い、「一棹」「一竿」と言います。どちらも竹ざおを指します。

昔は箆笥や長持ちを運ぶとき棹を通して担いだのでこう数えるようになりました。また羊羹（ようかん）や外郎（ういろう）、州浜（すはま）のように棒状に作って切り分けるお菓子を「棹物菓子」と言います。三味線・箆笥・羊羹など。